

リニア中間駅（4 駅）を中心とする地域活性化に関する検討委員会 設立趣旨

日本の国土は交通網の発達とともに発展を遂げてきた。とりわけ 1964 年の東京～名古屋～新大阪をつなぐ東海道新幹線の開業が、その後の日本経済の成長に与えた影響は大変大きいものであった。

激化する国際競争の中で、日本が今一度輝きを取り戻し存在感を発揮するために、国土軸を発展的に強化する基幹インフラの整備が望まれる。リニア中央新幹線は 2014 年に大臣認可を受け、着工以降、各地で工事が進められているところである。

街づくりや広域交通ネットワークの整備等には相応の期間を必要とする。品川駅周辺や名古屋駅周辺では各種の基盤整備が意思決定され進められようとしているが、中間駅予定地における拠点化の動きは未だ限定的な範囲に留まっている。

品川駅～名古屋駅間に設置されるリニア中央新幹線の 4 つの中間駅が拠点性を持ち、周辺圏域におけるハブ機能を持ちながら、その地域特性を活かした未来デザインを中間駅設置エリアを中心に描き、それを実現していくことが望ましい。リニア中央新幹線整備により飛躍的な空間的直結性を手に入れる中間駅周辺圏域が各々パワーアップし、それら相互をつなぐネットワークがインテグレートされることが国土軸の強化に果たしていく役割は大変大きなものになると思われる。

D X の重要性が浸透し、今後の更なる I C T の進展は、都市間高速交通網と連携して相乗効果を発揮していくものと考えられるべきである。次代を切り拓き担う産業、次代を創り支え発展させていく研究開発拠点等が、大都市の集積と連携しながら中間駅周辺圏域に立地していくことは、国土軸を含む圏域全体のポテンシャルを高めていくと考えられる。

残念ながら今日、国際競争社会における日本の国力の地盤沈下傾向は顕著である。今後の日本において、国土軸が発展的に強化され、国土軸圏域全体が高度な連携を持つことで、日本の国力をエンパワーメントしていくことが重要な方向性であると考えられる。

その具体的方策を立案するために、本検討委員会をスタートさせるものである。